

納涼晚餐会を開催

火曜午餐会 8月例会

火曜午餐会の8月例会は、日頃の研修・研鑽の会を離れて一服の涼を、と第1火曜日の2日夕刻から納涼晚餐会として開催した。連日の猛暑とコロナで落ち着かない日々が続いているが、場所を奈良ホテル・大和の間に移し、午餐会会員、ご同伴者を合わせ38名が参集。感染拡大防止のため、1テーブルの人数を減らしアクリル板を設置しての開催になったが、ゲストにピアニストの田村綾さん、ボーカリストの松岡美穂さんを迎え楽しいひと時を過ごした。

田村さんのピアノによるウエルカム演奏の中、参加者が着席し18時開会。挨拶に立った菊池会長は参加者への謝辞と共に「私は、この土日に、20数回目になる大峰山登拝に行ってきました。昨年、大先達の称号を頂きましたので、体力の続く限り頑張りたいと思っています。さて、おかげさまで、経済倶楽部ビルもテナントが満室となり、会議室利用も含めて近鉄奈良駅周辺ではなくてはならない存在になっています。今日は、ひとときではございますが音楽と食事をお楽しみ下さい。また、お土産にクラフトビールYAMATOのビールとグラスをご用意しましたので、帰宅後もお楽しみ下されば幸いです」と述べられた。

続いて、ゲストの田村綾さんと松岡美穂さんが登場。オープニングはNHK朝ドラ「カムカムエヴ

リバディ」で流れた「オン・ザ・サニー・サイド・オブ・ザ・ストリート（明るい表通りで）」(1930年ブロードウェイのミュージカルで紹介後、ジャズのスタンダードナンバーとなる)。

2曲目はしっかりと「黄昏のビギン」(永六輔作詞、中村八大作曲。1959年水原弘の為に作られ、ちあきなおみが歌ってヒット、多くの歌手がカバーしている)。

3曲目は夏らしくパンチの効いた「真っ赤な太陽」(1967年美空ひばりが歌った)。

4曲目は「大切な事は特別な事ではなく日常にたくさんあるよ」という歌詞が優しい「たしかなこと」(2005年小田和正作詞・作曲)。

5曲目は「糸」(2001年中島みゆき作詞・作曲)。「縦の糸はあなた、横の糸は私、織りなす布はいつか誰かを温めうるかもしれな

い」という有名な歌詞を客席の参加者も一緒に歌った。

6曲目はなつかしい「テネシーワルツ」(1948年アメリカでヒット、日本では1952年江利チエミが歌って大ヒットした)。

7曲目は洋楽。ボーカリストなら誰もが敬愛するというホイットニーヒューストンの「I Have Nothing」「I will Always Love You」をメドレーで熱唱。



〈松岡美穂さん〉

兵庫県出身のボーカリスト、キーボードプレイヤー。東京シャンソンコンクールグランプリ受賞。各種イベント企画、司会、キャスター等、大阪・神戸等のイベント・ライブハウスで活動中。

す。皆様のご健勝と経済倶楽部の発展を祈念して、乾杯！！」とのご発声と共に料理が運ばれ、和やかに食事会が始まった。ウィズコロナの時代に入り、食事は黙食、会話はマスク着用、飲み物サービスはホテルの方をお願いする事も定着した様子。参加者は、落ち着いて食事やお酒を楽しまれ、納涼晚餐会は無事20時に幕を閉じた。



最後は明るく楽しい曲をと「LOVE」(1965年アメリカのナット・キング・コールのヒット曲)、参加者も手拍子で一緒に参加、45分間の演奏会を楽しんだ。

続いて食事会。乾杯は豊澤副会長。参加者への謝辞を述べられた後、「久しぶりの乾杯でございま

〈田村 綾さん〉

大阪出身のピアニスト。奈良文化女子短大ピアノ専攻卒業。関西を中心にあらゆるジャンルで演奏活動を行っている。

